



平成29年度北方方面隊総合戦闘力演習



民有地に展開する地对艦誘導弾



陸上幕僚長視察



総合戦闘射撃



防御陣地において敵方を警戒する小銃手



民有地におけるレーダーによる沿岸監視



空中燃料・弾薬再補給点構成のための燃料積載



155mm 自走留弾砲による実弾射撃



航空機による救命ドクトリンの実践



現地調達における業者からの納品

最も強く最も頼もしい北方方面隊



第739号

平成29年11月14日

方面總監要望事項

よく考えて、
前へ!

陸上自衛隊
北方方面隊広報紙
発行：北方方面總監部広報室

北方方面隊
ホームページ
<http://www.mod.go.jp/gsd/nae>



北方方面隊（總監田浦 陸将）は、平成29年8月28日から10月5日の間、北海道内各駐屯地、北海道大演習場、矢野別演習場等の演習場及び北海道内数十箇所の部外地を含む全域を使用して、平成29年度北方方面隊総合戦闘力演習（北演29）を実施した。

本演習は、統合作戦環境下において、方面隊が総合戦闘力を最大限に発揮して、各種事態に対応する作戦遂行能力の向上を図ることを目的とし、毎年1回北方方面隊の最も重視する事業として実施されており、本年度は統合課目を演習する機能別訓練と、陸上課目を演習する総合訓練に区分して実施した。

機能別訓練は、平成29年8月28日から29日及び10月4日から5日の間、東北方面隊、海上自衛隊大湊地方隊、航空自衛隊北方航空方面隊と協同し、襟裳分屯基地において協同防空訓練、函館駐屯地及び青函西沖において対艦攻撃協同訓練の統合訓練を実施した。

総合訓練においては、第2師団が鬼志別演習場、上富良野演習場及び北海道大演習場の複数演習場を使用して道北地域の縦深にわたる防御を、第5旅団が矢野別演習場において道東における防御を演習し、作戦基本部隊の行動に連携して、情報通信を構成し、指揮

合課目を実施し、統合運用能力の向上を図った。総合訓練は、平成29年9月16日から28日の間、10日間の連続状況下の訓練に引き続く3日間の総合戦闘力演習を実施して、総合戦闘力の最大限発揮に必要な練度を維持・向上した。

本演習は、過去最大規模となる人員約1万7千名、車両約3千2百両、多数の航空機及び艦船等を含む北方方面隊の全部隊が参加し、各師団及び旅団司令部が野外に展開して總監部との間にシステム通信を構成し、指揮

報、火力、対空、施設、航空、通信、電子戦、会計、衛生及び兵站の各機能が行動し、方面隊全体の作戦遂行能力を向上した。またこの間、北方方面航空隊、北方方面通信群、北方方面合隊、北方方面衛生隊及び北方方面音楽隊の5コ部隊の訓練検閲を実施した。

北方方面隊は、北演29を通じて、北海道における各種事態への対処能力の向上に加え、統合機動防衛力に寄与し得る即応機動する陸上自衛隊の構築に貢献し、「最も強く最も頼もしい方面隊」を目指して練成を積み重ねる。

幕僚活動を演習した。また、演習間の9月24日、陸上幕僚長（山崎陸将）の視察を受けるとともに、各職種学校長の研修を得て、演習状況を認識し、意見交換を実施して、次年度以降の北演の実施要領の検討の資を得た。

函館駐屯地視察及び殉職隊員を慰霊

小野寺防衛大臣部隊視察



大臣に対する状況報告



献花台に献花する大臣



駐屯地を出発する大臣の見送り

方面隊は、9月27日、小野寺五典防衛大臣の視察を受けた。

大臣は、北部方面隊及び函館駐屯地の現況の把握及び北斗市のLR-2航空事故現場において殉職隊員4名の慰霊を行った。

函館港に到着した大臣は、LR-2航空事故現場(袴腰山)へ移動し、献花台に花をたむけ、任務遂行中に亡くなった4名の殉職者の冥福を祈った。

函館駐屯地へ移動した大臣は、陸上幕僚長(山崎陸将)、北部方面総監(田浦陸将)、函館駐屯地司令(阿部1佐)との会食の後、北部方面隊及び函館駐屯地の現況について、

て、函館駐屯地司令から報告を受けるとともに、北部方面隊の現況、特に、函館駐屯地に配備されている航空自衛隊のPAC3部隊に対する駐屯地の支援状況、周辺自治体等関係機関と連携した地域住民への理解促進などについて報告を受けた。その後、大臣は、駐屯地の各施設を巡視し、函館駐屯地の現況及びPAC3部隊の配備状況について確認した。巡視を終えた大臣は、「この地域に万全の備えをする必要がある」「任務遂行するため、部隊の相互連携及び周辺自治体等との良好な関係維持を」と述べ、防衛態勢の重要性を強調した。

あらゆる困難を克服し任務完遂 平成29年度方面直轄部隊訓練検閲

北部方面隊は、9月13日から9月28日までの間、北部方面隊総合戦術力演習の場を活用し、平成29年度方面直轄部隊訓練検閲を実施した。

本検閲は、北部方面航空隊(隊長 安井1佐)、北部方面通信群(群長 井上1佐)、北部方面会計隊(隊長 濱松1佐)、北部方面衛生隊(隊長 沖本1佐)、北部方面音楽隊(隊長 村田3佐)の5個部隊が、9夜10日(通信群は12夜13日)の長期にわたり受閲した。

各部隊は、終始隊員の士気も高く、隊長を核心に一致団結するとともに、創意を凝らし、あらゆる困難を克服し、それぞれに与えられた任務を遂行した。



北部方面航空隊 Aviation



北部方面会計隊 Finance

北部方面通信群 Signal



北部方面衛生隊 Medical



北部方面音楽隊 Band



最も強く、最も頼もしい
北部方面隊を目指して

在日米陸軍司令官 稚内分屯地等視察



宗谷湾を背に記念撮影



第301沿岸監視隊の視察



ギフト交換

北部方面隊は、10月3日、在日米陸軍司令官バスカレット少将の稚内分屯地及び礼文分屯地への視察を受けた。今回の視察は、北部方面隊と在日米陸軍との関係強化を図るとともに、日本最北の地で勤務する沿岸監視部隊の視察を通じ、陸上自衛隊への理解促進を図ることを目的として実施された。

視察には、在日米陸軍司令官の他、第1軍団（前方）司令官、在京米国大使館付陸軍武官等が参加し、稚内において第301沿岸監視隊及び海空自衛隊部隊を視察した後、ヘリにて礼文分屯地へ移動して、分屯地内の施設、勤務状況等の視察を実施した。

平成29年度北部地域自衛隊統合演習

三自衛隊の力を一つに

対艦攻撃協同訓練



レーダーにより敵を捕捉

北部方面隊は、10月4日から10月5日までの間、津軽海峡周辺、道南地区及び駒ヶ岳演習場において、東北方面隊が主催する北部地域自衛隊統合演習に参加した。

本演習は、航空自衛隊が担任する「空対艦訓練」、海上自衛隊が担任する「艦対艦訓練」、陸上自衛隊が担任する「地対艦訓練」ごとに区切って実施され、対艦攻撃における攻撃目標の情報共有及びそれぞれの対艦攻撃要領を訓練し、北部地域自衛隊の連携要領の深化を図った。

第1特科団（団長 片岡将補）は、東北方面隊が担任して実施する「地対艦訓練」に第1地対艦ミサイル連隊（連隊長 後藤一佐）を基幹として参加し、実艦船の標定から情報処理及び射撃指揮を訓練するとともに、東北方面特科隊との協同による攻撃要領を演練した。

訓練実施部隊は、函館駐屯地及び周辺部外に展開し、北部地域自衛隊協同による対艦攻撃における、連携要領、情報共有について練度向上を図った。



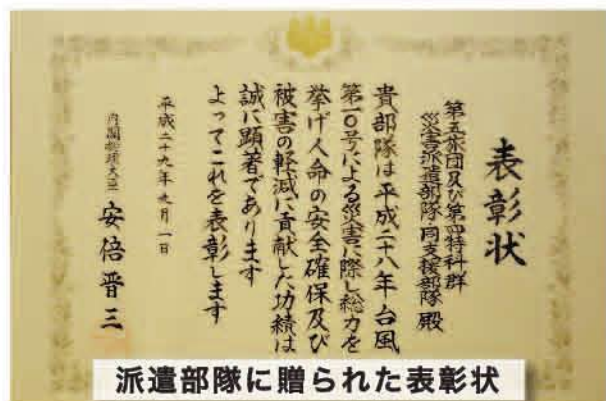
海岸上に展開する対艦レーダー



情報を元に敵の位置を探る



総理大臣官邸での表彰式



派遣部隊に贈られた表彰状



内閣総理大臣（最前列中央）との記念撮影

総理大臣官邸2階大ホールにおいて実施された表彰式には、道内の災害派遣部隊を代表し、第5旅団長が出席し、内閣総理大臣より表彰を受けた。

表彰式の後、中央合同庁舎第8号館1階講堂において行われた祝賀会食には、内閣官房長官、防衛大臣も同席し、表彰を受けた陸・海・空自衛隊関係者と会し、受賞者を労った。

第5旅団 旅団長 堀井将補 及び第4特科群（群長 神園一佐）は、平成29年9月8日、防災功労者内閣総理大臣表彰を受けた。

本表彰は、防災の日及び防災週間になんで、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象に表彰している。

平成28年に発生した台風10号の影響で、道東を中心に大きな影響をもたらした集中豪雨による災害派遣において、19日間にわたり、延べ約1700名が出動し、約160名の孤立者救助及び給水支援や6カ所の道路啓開、物資輸送等の生活支援など、被災地住民の安全確保と生活基盤の確保に多大な貢献をした功績により受賞した。

災害派遣（平成28年台風10号）に伴う 平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰



第6普通科連隊庁舎前での記念撮影

最強を目指す隊員の鼓動を間近で体感 オピニオンリーダー レンジャー集合訓練研修

北部方面隊は、9月9日から10日の間、オピニオンリーダー活動として、第6普通科連隊で実施された第5旅団第13期レンジャー集合訓練の研修を行った。本研修は、北部方面隊オピニオンリーダーに対し、過酷な訓練に参加する隊員の間近での研修と、美幌駐屯地史料館の研修により、自衛隊への一層の理解を図ることをねらいとして実施した。

9日の網走地方は、局地的に強い雨となる生憎の天気であったが、予定通り網走湖において水路潜入訓練を実施するレンジャー訓練隊を研修した。オピニオンリーダーの瀧本峰男氏は、レンジャー教育隊長である第6普通科連隊の本間3佐による訓練説明に熱心に耳を傾けるとともに、ゴムボートによる潜入・水上機動・隠密上陸を真剣な表情で繰り返す、救命胴衣に身を包んだ精鋭達の様子と、激しく降り出た大雨の雨に身を濡らした大粒の雨に身を濡らしつつも、最後まで訓練を見守った。翌10日は、美幌駐屯地史料館「北辰館」において、旧陸・海軍及び陸上自衛隊に関する展示品を興味深く見学し、旧軍時代から今日まで続く美幌駐屯地の歴史を理解された。また、駐屯地内で実施されたレンジャーの体力調整も近くから見学することができた。瀧本氏は、「厳しい訓練をする隊員の姿に感動した。別の研修にも是非とも参加し、自衛隊の理解を深めたい」と述べ、最後に第6普通科連隊本部庁舎前で記念撮影を行い、本研修を終えた。



ボートによる水路潜入訓練

～心の健康相談室～

(第189回) **人生に潤いを与える言葉**

士君子は貧にして物を済うこと能わざる者なるも、人の疲述の処に遇いては、一言を出してこれを提醒し、人の急難の処に遇いては、一言を出してこれを解救す。また、是れ無量の功德なり。

(葉根譚 前集・142)

即ち「然るべき立場にある人は、経済的に乏しくて物質的に人を救済はできなくとも、誰かが迷って悩んでいる時に会わしたら一言、声をかけ迷いから呼び醒ましてやり、また危急困難に陥っているところに出会わしたら声をかけて救ってあげるならばこれこそ、計り知れないすぐれた「功德」(善根)である」というのです。

この「無量功德」は梵語で<guna>の訳語で善を積んで得られる「善根」のことです。

心の健康相談・メンタルヘルス・カウンセラー

根本和雄

厳正な雰囲気の中、新しい看護衣に身を包んだ25名(男性14名、女性11名)は、看護教官からひとりひとりにナースキャップが授与された。後、学生長の指揮のもと、衛生科精神を唱和した。式では、病院長から「人との関わりに『温かい思いやり』を持つて臨み、整った環境はもとより、野戦であろうとも常に平常心で、己の技能を最大限発揮できる職能を磨くよう、人に関心を持って、何事にも動じない心を磨け」の2点を要望し、看護学院長からは「受



第42期初級陸曹特技課程「准看護師」戴帽式

自衛隊札幌病院(病院長 上野隆将)は、9月28日、北部方面総監部医務官をはじめ、同人事務長、教育班長、北部方面最先任上級曹長、北部方面衛生隊長及び同最先任上級曹長等多数の関係者が臨席する中、第42期准看護学生生の戴帽式を挙

げ身に臨み、積極的に学び、医療従事者としての基礎を磨き、実習に際し「准看護師の資格をもつ自衛官になり、国民の負託にこたえるという覚悟を新たに臨む」を要望した。

北の駐屯地 その歩み 最終回 「標津分屯地」



分屯部隊、標津到着(昭和32年9月)

標津分屯地は、根室海峡の対岸に位置し、国後島を眼前に臨む釧路駐屯地の分屯地である。分屯地が所在する標津町は、明治12年に開基昭和33年に標津村から標津町となり本年で開基138年を迎える。気候は根室海峡に面した海洋の影響により、春から夏にかけては濃霧の発生が多い反面、秋は移動性高気圧、冬は季節風により、晴天の日が多くなっている。

主要産業は漁業と農業の第一次産業であり、漁業はさけます定置網漁とホタテ漁を中心とし、農業は酪農を主体とした畜産業である。人口は戦後昭和40年の約1千人をピークに現在は約300人まで減少したが、町の定住・移住及び子育て支援政策により、減少傾向に歯止め効果が表れている。

分屯地の沿革は、昭和31年に札幌駐屯地で第302沿岸防衛隊が編制存である。



標津町民まつり(山車曳き)

され、昭和32年9月に当時の標津村に移駐となる。その後、昭和36年に基地通信部隊が、昭和57年に管理部隊が配置され、今年で60周年の節目を迎える。分屯地の主力部隊である第302沿岸監視隊は、所在部隊である第302基地通信中隊標津派遣隊、釧路駐屯地業務隊標津管理班の支援を受け、根室海峡周辺海域を航行・飛行する艦船・航空機の動向を早期に察知するため、昼夜を問わず隙のない監視活動を行っている。また、地域行事への積極的な参加・支援として、夏には標津神社祭典興行、標津町民まつり山車曳行、冬には標津冬まつり雪像製作など、地元住民との交流による地域との連携を図っている。

標津分屯地は、所帯は小さいながらも与えられた任務は大きく、これらも我が国の安全保障の一端を担う道東の第一線部隊として、厳しい環境の中、分屯地全隊員が一丸となり任務遂行する所存である。



今月の一枝

10月に入り、気温もグッと下がり、山は紅葉で美しく彩られる季節になった。朝晩は、暖房を入れた家も多いかと思われ、しかしながら、燃料高騰の折、暖房を入れずに頑張っている方も多いのではないだろうか？

先日、恵庭湖周辺の紅葉狩りに出かけたが、晴れ渡った休日となったこともあり、多くの観光客が訪れ、普段は閑散とした無人の駐車場には、交通整理をする人が配置され、駐車待ちの車で長い列ができるほどの盛況ぶりであった。紅葉狩りは室町時代以降に始まったという説があるが、多くの庶民の間で楽しまれるようになったのは、江戸時代中期と言われている。当時の人たちは、紅葉を鑑賞するだけではなく、紅葉の下に食べ物や酒を持ち込んで、花見さながらに楽しんだそう。春夏秋冬と色んな楽しみ方を考えた昔の人は、楽しみが少なかった昔、思う存分楽しめた先人の生き方も、忙しい現代人は見習うべきではないだろうか？

編集後記